

# 平成30年度使用教科用図書調査書まとめ

教育指導課

平成29年7月

# 平成30年度使用教科用図書調査書まとめ

## 目次

### 小学校 特別の教科 道徳 (種目：道徳)

集計表	・・・・・・・・	1
「その教科書が適切である理由」一覧		
東京書籍	・・・・・・・・	2
学校図書	・・・・・・・・	5
教育出版	・・・・・・・・	7
光村図書出版	・・・・・・・・	9
日本文教出版	・・・・・・・・	13
光文書院	・・・・・・・・	15
学研教育みらい	・・・・・・・・	18
廣済堂あかつき	・・・・・・・・	21



平成30年度使用教科用図書調査書まとめ 「その教科書が適切である理由」一覧

小学校・特別の教科 道徳

東京書籍

その教科書が適切である理由	
4. 「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	子どもたちの作業するページがあり、わかりやすい。読ませたい題材が多い。
2	身近な内容で、読み物のすぐ後に課題が提示されているので、自分のことを振り返りながら考えることができる。
3	教室の中でありそうな場面が教材文の中にあり、主人公が葛藤する様子が描かれており、児童が自分自身とつなげやすい。
4	見通しを持てるようになっていて、主体的に学習に取り組み、自分の考えから議論につなげることができる。
5	簡潔でわかりやすい。学級の実態に応じて広がりのある発問、自分のこととして捉えやすい内容である。幅広い意見をもつことのできる発問である。
6	教材名とともに記されている「めあて」や「考えるポイント」が簡潔でわかりやすく、低学年に適している。また、内容も身近なものが多く、活発な意見交換が行えるような内容構成になっている。
7	子どもたちの身近な出来事や日常の場面がイラストで描かれていたり、子どもたちが想像しやすい場面展開となっている。そのため、場面の立場になって話し合いができる。自分に返す質問があり、自分事としてとらえられる。児童に考えさせたい、議論させたい課題が明確である。発問等は教師の力量にかかる部分ではあるが、わかりやすい。内容も構成がシンプルで読みやすい。
8	自分だったらどうするか、考える内容が多い。最後に考える視点が設けられているのがよい。身近なことを考えられるのがよい。ドラえもんなど児童が関心を持てる。児童の実態に応じて授業展開を考えていきやすい。情報モラルを低学年から扱っている。学びを生活に生かせる。
9	課題の提示のしかたが、考えを引き出す提示となっており、適切である。問題の投げかけ方が明確である。
10	ひとつのテーマに対して、複数の立場で考えやすいイラストになっている。発問が二種類あり、多様な考えを出せるようになっている。アニメの題材を取り込んでいて、自分のこととして捉えやすい。
11	身近に起こる課題を扱い、児童が自分と重ねて考えたり議論したりしやすい工夫がされている。オープンエンドな題材が多く、多様な価値を認められる。
12	目次が見やすい。育てたい力ごとにまとまっている。児童の生活に根ざした、わかりやすい状況設定がよい。
13	児童が自分の問題として、考えやすい内容が多い。
14	読み物の後の問いがシンプルでわかりやすい。児童が議論しやすい。身近な話題が選ばれている。社会科の学習に出てくる人物が多く取り上げられているので、興味関心を持って考えることができる。子どもが様々な価値観を持つことができる。振り返りに適した内容になっている。考える道徳につながった内容。
15	発問が少なく、教師が児童に合わせた展開を考えやすい。必要最低限のことしかなく、児童の考えも偏らせない。また、発問が限定的でなく、学びに広がりを持たせられるのでいろいろな考えを出させやすい。挿絵が豊富で考えやすい内容になっている。
16	主体的に考えられる内容構成になっている。
17	児童にとって身近な話が多く、児童の議論が盛り上がるのが予想される。自分のこととして、振り返る発問があってよい。道徳的資質を高めるための発問があり、よい。
18	あえて途中で終わる題材を取り入れるなど、児童が考えを深めたり議論しやすい工夫がされている。
19	設問が的確である。生活に合った身近な題材が多い。
20	物語に設問がついていない。恣意的でないところが良い。
21	自分の思いや考えを持ち、話し合いになる設問が多くある。
22	気づき、考え、振り返りを生かす構成となっているため。
23	本時で考えるべきめあてが明確である。児童にとって身近な題材が多く扱われている。
24	題材がわかりやすく、議論しやすい。
25	自分自身と向き合うことについて、日常生活において起こりうる内容になっている。
26	考えさせる内容が多くある。

その教科書が適切である理由	
5.「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	自分を振り返ってみる簡潔な設問が多い。
2	一方的な質問ではなく、児童の素直な思いが引き出せそうな内容となっている。
3	具体的な内容がよい。身近な内容がよい。
4	指導者の願いで多角的な授業を作ることができるため。
5	自分自身を見つめ、人、社会とのつながり、生命、自然、大いなるものの観点がバランスよく配置されている。
6	成功体験から教訓を導き出すという形ではなく、失敗から考え学ぶという形となっている点で、話し合いがしやすい。物事を様々な方向から考えられるように工夫されている。
7	視点が広がる発問である。
8	とびらページに心にひびく言葉が書かれている。「22ぼく」では、ぼくのすきなものをあげていき、自分が好きにたどりつくので、自己肯定感に気づく。様々な考えを出しやすい発問が多く、多面的多角的である。
9	自分自身を振り返る学習活動ができるような問いが提示されている。
10	自分の生き方、友達、家族、公共など、あらゆる場面が教材としてわかりやすく取りあげられている。また、立場の違いも配慮されており、多角的に考えるきっかけになる教材が多い。
11	状況設定がわかりやすく、様々な角度から物事を考える工夫がされている。
12	各項目ごとに、自分がどう考えるか適切な課題が示されているのがよい。誘導的な質問になっていない。学年に応じたわかりやすい内容で、イラストも多く、児童が自分の考えを深めることができる。また、登場人物や情景をイメージしやすく、いろいろな考えを持つのに適している。
13	児童が、自己を見つめ、考えることができる内容になっている。
14	設問が工夫され、児童が物事を多面的・多角的にとらえることができる。「考えるステップ」では、自分を見つめ、他人の考えを聞く機会がある。他の考えを知り、自分の考えを深めやすい。
15	一年生では、入学してからすぐに使える工夫がされている。(イラストで考える→文字学習が進んで読み物へ)また、考えを多角的に出しやすいよう、設問をあえて明記せず、児童の実態に応じた担任に任されているところがよい。さらに、児童が考えを出しやすいように吹き出しが少なく、自分の意見を出しやすい構成になっている。
16	取り上げている人物や題材が多様であり、子どもたちの視野を広げることができる。人間の弱さやそれを乗り越えようとする強さについて考えることができる。
17	身近な内容になっており、自己を見つめるきっかけになりやすいものが多い。
18	状況設定がわかりやすく、様々な角度から物事を考える工夫がされている。
19	話し合う前に、自分を振り返るページがある。様々な観点を取り入れている。
20	一つの題材から多面的に考えさせる工夫がある。適切な学習の振り返りができる。(学期ごとの振り返りページ)
21	巻末に振り返りの欄があり、学期ごとに自分の考えを記述できる。身近な話で、自分と置き換えられる。
22	自分を振り返るページがある。多面的・多角的に考えられるよう配慮している。

その教科書が適切である理由	
6.「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	学級のことに照らし合わせて考えることで、問題解決的な学習を自分事として捉えられる。
2	自分の体験として捉えやすい内容が多い。話し合いの手順が書いてあるので取り組みやすい。
3	身近な課題が取り上げられており、自分のこととしてとらえ、考えることができる工夫がされている。
4	カードや賞状を書く内容が取り入れられており、体験的な学習になっているため。
5	日々の体験に沿った内容である。
6	身近な問題が多く教材として取りあげられていて、ロールプレイング形式を取り入れたものもあり、自分のこととして具体的に考えやすくなっている。
7	問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等が適切に取り上げられているため。
8	「ぼくの〇〇」といった自らの体験に即した内容が多く取り上げられ、学習内容を身近な問題としてとらえやすい。児童に身近な内容、体験的な学習が取り上げられている。生活の中で生じる身近な課題が提示されているため、児童が主体的に学習を進めて考えを深めることができる。
9	児童が興味を持ちやすい題材が多い。どの児童にも起きそうな読み物が多いので、問題解決学習に適している。
10	平和に関する題材を多く取り上げている。また、環境問題を取り上げた題材があり、自分たちにはできることは何かという体験学習の発展も予想される。
11	身近な内容が多く、児童が直面するであろう場面が取り上げられている。
12	身近な話題や多くの体験談があり、多様な意見を出しやすい。
13	発達段階に応じた無理のないワークシートで、児童が自身の振り返りができる。また、考えを深めることができる内容になっている。
14	体験活動を通して高められる道徳性が意識されている。ロールプレイングの要素を取り込んでいる。
15	他教科との関連において、道徳性が高められる(体験活動)。
16	学校生活をテーマに取り上げた読み物の比率が高い。写真や活動の手順が具体的に載せてあり、取り組みやすそうに感じる。児童が共感できる内容である。
17	普段の生活の中で起こりうる事例を取り上げ、問題解決しやすい面がある。
18	問題解決の活動内容(書分量)が児童の負担にならない程度になっており、適切と考える。また、「考えるステップ」が適所にあり、児童の考えを解決しやすくしている。
19	学校生活において、体験可能な話題が多い。「つながる・広がる」は、他教科との体験的な活動に広がりやすい。
20	子どもたちの今日的な課題を取り上げている。子どもたちの様々な意見を交わすなかで考えることができるように構成されている。
21	体験的で身近な内容になっている教材文があり、考えやすい。
22	児童の体験から学ぶ活動が多い。
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	資料が短めで、わかりやすい。本校児童に適している。
2	別冊ノートや書き込みがないので、話し合い活動や考える時間に重点がおける。地域と関連した教材(走れ江ノ電)がある。
3	状況設定がわかりやすく、イメージがしやすい。絵がやわらかい。
4	本校児童が興味を持ちやすそうな題材が多い。
5	わかりやすい内容、文字表記等が児童の実態に合っているため。
6	「とどちやもんぼくら」や「ぼくはのび太でした」が取り上げられていて、身近に感じられる。
7	わかち書きになっており、児童が内容を理解しやすい。学習した漢字のみが使用され、ルビ等もなく、読みやすく理解しやすい。子どもたちが興味を持って取り組める題材が多い。
8	地域や学校、また子どもたちの実態に合わせて発問を工夫し、道徳的価値に迫れる。子ども目線で身近な問題を平易な文章でわかりやすく書いてあり、考えやすくなっている。
9	内容がシンプルで読みやすく、教科書の内容に集中してできると考える。使用する文字の大きさや行数などが児童にとって読みやすい。具体的な場面がイラストで提示されているので、自分の行動と照らし合わせて考えることができる。
10	体験活動との関連に配慮している。
11	道徳の学び方が巻頭にわかりやすく表記されているので、本校児童にとっては取り組みやすい。
12	料理や遊びから世界の国を知らせるなど、児童の興味を引かせる工夫がされている。
13	情報モラルについての内容を各学年で扱っている。
14	設問がわかりやすくシンプルでよい。(互いの考えを尊重し合い、考えを深められる。)
15	3年生の学習と関連して、調べ学習にも活用できるようになっている。
16	読みやすく、児童にとって身近なテーマが多い。また、教師が児童の実態を考慮して発問できるよう、無駄な部分がなく、柔軟性がある。
17	学校行事の内容が本校の児童に適している。
18	字が大きくて読みやすい。外国籍児童が多い学校の児童にとって、「世界の小学生」は、ためになる題材だと思う。身近な地域の題材を扱っているため、児童も身近に感じられる。
19	「走れ江ノ電光の中へ」があり、地域を走る鉄道が出てくることから、親近感を持って学べる。内容的に児童の実態に即している。
20	地域の題材も取り上げており、自分のこととして捉えやすい内容である。挿絵や写真で興味をひきつける工夫がされている。
21	身近な題材、親しみやすい内容である。
22	どんな児童にも読みやすくわかりやすい教材が多く、様々な状況にある本校の児童に適していると思われる。
23	正月料理を扱い、食に関する話題を適切に扱っている。
24	児童にとって身近な内容が多く、考える道筋も作りやすい。
25	児童の実態に即している。
26	文章や内容量が適切。文章記述等の課題が少ない。

その教科書が適切である理由	
4.「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	補助教材があり、書き込みが多すぎず、使いやすそうであるため。
2	児童の生活に即したわかりやすい内容構成である。
3	発達段階に応じた教材である。別冊「活動」は、一人ひとりが考えたり、学びを生活に生かしていったりするためのヒントとなる。
4	「読み物」と「活動」の2分冊になっていて、使いやすい。色合いが派手でなく見やすい。
5	別冊の教科書での学習の幅が広がる。
6	子供たちに考えさせる内容が明確に示されており、考える道徳になっている。
7	自分自身を考えさせる表現がやわらかい。
8	ノートと教科書がわかれていることにより、自分の考えを書きやすくなっている。教科書の読みもの、分冊の活動の2部構成により、一人ひとりが考え意見交換ができる工夫がされている。
9	教材の配置が段階を追ったものになっている。ノートの発問が「話し合おう」「考えよう」「見つめよう」になっている。
10	「考えよう」の設問がよい。
11	読み物を通して子どもが考える力を育むことができる。いろいろな絵本作家が出ていて、興味を持って読み進めることができる。(1年)
5.「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	多角的に考えられる。
2	別冊に「はなしあおう」「かんがえよう」「みつめよう」などのアイコンが示され、必ず自分自身に返される流れができています。
3	多様な考え方、見方を提示している。
4	ワークシートの型が決まっていないので、文字や絵など様々な方向から考えられるため。
5	自分の考えを書きことができる「活動」の冊子がついているのがよい。(4年)
6	多面的な教材を扱っている。いろいろなことを考えさせることができる教材である。
7	学校生活に沿った内容である。
8	別冊「活動」の利用で話し合い活動を通し、様々な考えを共有できる構成になっている。
9	項目ごとに「自分を見つめよう」という問いがあり、自分のことについて考える機会が設けられている。
10	ノートと教科書が分かれているため、子どもの実態に合わせた指導ができる。児童の考えが多様に出せる設問となっており、多面的に考えさせる工夫がされている。分冊の活用により、児童が自分と照らし合わせて考えることができる。
11	自分に置き換えて考える発問が設けられている。
12	「活動」の本の設問が具体的であり、物事を多面的に考えられるように工夫されている。
13	ノートが道徳的価値ごとにまとめられていて、自分の成長を一目で確認できる。資料の並べ方や表示の工夫がいい。
6.「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	ロールプレイ学習が取り入れられている。
2	かつどう編が適切である。ワークシートの方に、教科書に関するだけでなく、プラスαで自身の身の回りのことも取り上げ、考えさせる工夫がある。
3	普段の生活の中から出てくる問題が提示されている。読みものから離れ、個々の経験に返す設問が入っている。
4	体験的な学習が盛り込まれている。
5	身近に起こりうるだろう場面を材料に使っていて、自分の生活に照らして考えることができるのではないかと。
6	学習活動に置いて、話し合い活動が組み込まれていて、体験的に学ぶことができるため。
7	教師の活用の幅が広く、体験的な学習を取り入れることも可能な編成がされている。
8	書くことによって自分の考えや体験を整理する、あるいは発表する流れが作りやすい。
9	具体的な事例が取り上げられていてよい。

その教科書が適切である理由	
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	情報モラルなど近年課題になっていることを取り上げている。
2	普段の生活の中から出てくる問題が提示されているため、適切である。挿絵、写真が多く、状況把握しやすい読みものも多いので、本校の実態に合っている。自分たちの住んでいる地域のあたたかさが感じられるものが入っていた。分冊の発問(活動マーク)により、本校の児童にとって活動がしやすい。
3	国際教室もある本校の児童にとって、日本と外国について考える教材がわかりやすく掲載されていることは適切であるため。
4	読み物とかがどうに分かれていて取り組みやすい。外国籍児童が多い学校の児童にとって、資料に様々な国の文化や人々の考えが使われていてよい。
5	「ことば 情報モラル」など、今の児童に考えて欲しい内容が盛り込まれている。児童がイメージしやすい内容が多い。
6	余白が多く、書き込みがしやすそう。
7	本校の児童に親しみやすい構成になっている。(2年)
8	書く機会を増やし、文章表現力を高めたい児童の実態から考えると、記入枠の配置が良い。
9	議論をしやすい内容の読み物が多い。
10	「読み物」と「活動」の2分冊になっているので、学習しやすい。
11	分量が適切である。

その教科書が適切である理由	
4. 「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	児童の生活に即したわかりやすい内容構成である。
2	話し合う論点がわかりやすく扱いやすい。挿絵の工夫がされている。子どもの身近なことが題材になっている。
3	学びの手引きがついており、思考の過程がわかりやすい。
4	学びの手引きが詳しく書かれ、主題に向かって誰でも考えていくことができる。児童に考えさせる設問になっている。題材に沿った発問が多い。資料が適切に整理されている。
5	視点がはっきり示され、考える活動につながりやすい。
6	授業で考えさせたいことがはっきりしており、手順もきちんと示してあるので考えて欲しい内容へ導きやすい。盛りだくさん気味なので、担当が工夫すると良い。
7	結論を出さずに話を終える構成になっている。
8	自分のことに置き換えやすい身近な題材が多く記載されている。
9	振り返りが少なく、いろいろな単元が取り上げやすい。「学びの手引き」として、児童に考えさせたいテーマを発問形式で書いているので、授業を構成しやすい。学校内のことがテーマとして取り上げられている。
10	各領域の区分が年間授業時数に合っている。(6年)
11	主體的、対話的な議論になるような発問がなされている。
5. 「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	国旗に関する写真の掲載があるが、一面的な見解ではなく、題材として取り上げて扱えるようにしてある。
2	設問等が答えが一つでなく、様々な考え方が出来るようになっている。
3	資料の後の発問が多く、子どもが読んでも考えられる学びの手引きがあってよい。
4	児童の考えを引き出しやすい構成になっている。(吹き出しなど)質問が児童にとってわかりやすい。挿絵に吹き出しがついており、自己に置き換えて考えることができる。様々な観点を取り入れている。
5	道徳ノートの例が書かれているのが良い。身近なテーマが多い。
6	自己を振り返る題材が多く設定されている。児童の様々な考え方に触れる学習の進め方になっている。
7	「学びの手引き」や吹き出しの活用で、最後に自分自身の今に立ち返って考えるように導かれている。
8	様々な意見を引き出しやすく、学級の中での活発な意見交換をおこなえる内容になっている。
9	考えるヒントとなる視点が提示され、多面的に考えやすい。
10	内容が適切である。
11	多様な考え方、見方を提示している。また、状況設定がわかりやすく、様々な角度から物事を考える工夫がされている。
12	子ども同士の関わりや情報、生命の尊重など、今考えさせたい学習させたい点に重きを置いた教材が扱われている。
6. 「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	体験的な学習が盛り込まれている。身近な課題が取り上げられており、自分のこととしてとらえ、考えることができる工夫がされている。
2	給食当番の仕事や、大縄跳びの練習等、児童の体験的な学習と結びつけて考えられる。
3	児童が主体となる話が多い。考えやすい適度な量のワーク形式になっている。
4	内容が身近な場面から取り上げられているので、体験できることと想像がしやすい。
5	学校内のテーマが多い。
6	児童の日常に起こりやすい出来事を取り上げ、自分のことや友達のことを考えるのに適している。児童が共感できる内容である。
7	「やってみよう」「演じてみよう」など、実際にロールプレイングをするコーナーから問題解決に迫ることができる。
8	学びの手引きの質問がわかりやすく、考えやすい。
9	「ジャンプ」「スキル」「やってみよう」等のコーナーで体験的な活動や具体的な行動を通して自分の心やからだについて見直すことができる内容が盛り込まれている。
10	体験的な学習ができる教材が多い。
11	身近に起こる具体的な事柄が多く扱われていて、「スキル」のマークのあるところは、体験を通して考えを深められるようになっている。

その教科書が適切である理由	
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	子どもの生活に即した話が多い。また、状況設定がわかりやすく、イメージしやすい。絵がやわらかい。
2	子どもに身近な教材が扱われ、話し合いを含めた学習が行いやすい。
3	身近な問題を内容として取り上げているので、学習内容を自らの問題としてとらえやすい。
4	文字のレイアウトや大きさが適切で、イラストも目を引くようなものが多い。生まれ育ったふるさとのよさを見つけることができる内容である。内容的に児童の実態に即している。
5	項目がテーマ別でわかりやすい。絵本等で見たことがあるイラスト、話があり、学習に取り組みやすい。
6	児童にとって身近なものがテーマになっていることが多く、自身のこととして考えたり話し合ったりすることができる。
7	挨拶の仕方などが丁寧に書かれていて、コミュニケーションに配慮が必要な児童への指導にも役立つと考える。ユニバーサルデザインの視点を取り入れている。
8	絵が多くて見やすい。(6年)
9	教材文の内容が多すぎず、適切である。
10	児童の発達の段階に即した内容である。

その教科書が適切である理由	
4. 「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	いろいろな立場から考えられるような設問に工夫がある。「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」があり、話し合いがしやすいようである。(2)興味を持ちやすい絵や写真で使いやすい。
2	道徳の時間では、話し合う中で考えを広げたり、深めたりすることが図式化して子どもにもわかりやすく描いてある。読み物の内容が多岐にわたり、分量も多く感じるほどの読み応えのあるものになっている。現行の国語の教科書との関係も深く、児童も見慣れている装丁である。
3	子どもに親しみやすい題材になっていて、他教科との関連が図りやすいため。
4	友達との交流がしやすい。じっくり議論できる量。登場人物と自分が重なるように考えられた内容である。
5	児童が自分事としてとらえやすい資料が多く、文章がわかりやすい。
6	考える視点が明確である。
7	身近な題材を取り上げている。(2年)考えた後にさらに深めるための資料があつてよい。(4年)
8	人権についての教材がある。
9	学習内容を発問する工夫が入っている。また、「なんだろうコーナー」等児童の興味を引きつける工夫が認められる。はじめの見出しも少なく、考えを深めやすいつくりとなっている。
10	児童の生活に即したわかりやすい内容構成である。また、道徳的な課題を児童が自分自身の問題としてとらえやすい内容になっている。話題に変化があり、児童の興味・関心を引き出す。
11	「かんがえよう」の質問内容が学年相応であり、充実している。小学生の登場人物が多く、イメージしやすい。答えを誘導する問いになっていないため、児童が幅広い考えを持ち寄り議論できる内容になっている。
12	学習の道筋に自由度があり、自分の考え、友達の意見を聞きながら道徳観を養うことができる。
13	他者の教科書に比べ、児童の生活の現実にあった、考えを深めることのできる教材が多く掲載されている。また、「つなげよう」の部分で、考えを深めるためのポイントが適切に提示されている。
14	「考えよう」の欄で、自分はどうするか話し合っただけで深めたいことが明確に記されている。
15	他教科との関連性が高く、日常的に発生しやすい課題が取り上げられているため、具体的に考えやすく、体験や既習事項との関連が図れる。
16	自分自身の問題と捉える点について、日常生活において起こりうる内容となっている。
17	考えることができる道徳となっている。
18	物語が完結されていないことから、児童に考えさせることができる。一つの結論に導くのではなく、判断に迷うような題材があり、児童が考えて議論しやすいものになっている。
19	その後の展開を想像させるように、結末が書かれていない教材が多く、子どもたちの意見が活発に出やすい。読みやすく、自分事と捉えやすい教材が載っている。話し合いの仕方など、具体的なやり方の提示があり、わかりやすい。人権についても丁寧に触れている。
20	「考えよう」「つなげよう」など議論の柱が示されている。また、子どもたちから様々な意見が出せるような設問があり、議論が深まる。本質に迫る設問が多くあるのも良い。
21	内容ごとに考える視点が示されているため。低学年では身近な遊びや生活場面をとらえ、考えさせ、違う意見も出し合っただけで話し合わせる内容になっているため。文章の内容が比較的、議論に向いているため。設問が物語の読解でなく、自身と向き合える問いになっている。
22	学んだことから広げて生活につなげていくことができる内容構成となっている。取り組む課題が明確である。絵や写真が多く、視覚情報が多い。
23	児童の日常に返す課題があるのがよい。
24	「考えよう」に簡潔に学習内容がまとめられていて、わかりやすい。「つなげよう」や各設問の最初の吹き出しが子どもによくわかる書き方になっている。
25	かつどうノートがわかりやすい。読み物の後に、考えるべきポイントが載っていて、その後実践できるような内容構成になっている。
26	「考えよう」というコーナーを設け、児童の興味を引く工夫がされている。複数の道徳的価値が含まれた内容になっており、児童どうして話し合ったり、考えを深めたりする機会につなげることができる。
27	設問が絞られて考えてある。子どもの普段の生活にそってわかりやすい。
28	日常場面を取り上げている教材が多く、児童が自身の経験として捉えやすい。また吹き出しの利用により、気持ちを表現しやすくする工夫が見られる。
29	各単元の最後に発問があり、発問内容も端的でわかりやすい。ページのはじめにタイトルなどがなく、答えが決まっていなくて、児童が自分の考えをもって話し合いを深めることができる。子どもたちが読んで、交流しやすい。問いの構成として、話の内容から自分自身のことへと展開していき、その後社会一般の考え方などを話し合える。流れがスムーズである。

その教科書が適切である理由	
5.「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	一つの出来事についても見方を変えるとそれぞれの事情がある。多面的なものの考え方ができる教材が工夫されている。自分に問いかける工夫がある。設問が分かりやすい。自分のことを考えやすい。
2	自己を見つめ、みんなで共有する内容が多い。
3	自己を見つめる点における「かんがえよう」「つなげよう」の工夫がよい。内容が的確。
4	様々な場面で行動のあり方を考えさせるようになっている。人権や平和について、色々な角度から考えることの重要性を知るのに適した資料が多い。
5	ヒントや例など豊富に示している。
6	写真や絵が効果的に配置されていて、子どもたちの興味関心を引き付けることができる。(2年)設問がわかりやすい。(4年)
7	自分の考えを導き出そうという発問になっている。
8	教材に様々な分野を取り上げていて、幅広い解釈を可能とする資料や自由に考えることを可能とする資料が集められている。また、キャラクターを登場させるなど構成も工夫されている。
9	多様な考え方、見方を提示している。「考えよう」で大事なポイントがわかりやすい。
10	物語文や身近な出来事を取り上げることで、多様な考えを受け止めることができる。活動を誘発する問いが設定されており、自発的に自分の正直な思いを表現できる。
11	児童が経験しそうな題材を取り上げることで、自身の行動を振り返ることができる。
12	誘導的でなく、自分で考えたり感じたりできる。
13	他者の教科書に比べ、児童の心に葛藤を起こさせるような教材が多く、様々な意見を引き出す授業が展開しやすい。また、「考えよう」の部分で、様々な問いかけがあって、活用しやすい。
14	自己を振り返る題材が多く設定されている。また、考えるきっかけやヒント等が効果的に配置されている。
15	話の結末が問題を投げかけるような形で締めくくられており、児童は自分に振り返って考えることができる。また、教材の内容をさらに深められるように、関連する書籍の紹介コーナーもあり、読書活動の推進もできるように幅広い内容となっている。
16	物語を現実の問題と結び付けて考えられる。低学年は挿絵が多く、考えが出しやすい。
17	否定から入る題材が少ない。自分のこととして考えられる内容になっている。人権問題をわかりやすく扱っている。物語を多面的に見つめられるような発問の設定になっている。
18	「考えよう」という欄は、様々な価値から物事について捉えられるよう工夫されている。「学びの記録」には、ほどよい振り返りコーナーがある。結論づけていないものが多く、色々な視点から自己を見つめ直すことができる。
19	無理な押しつけがなく、柔軟な思考が促される。子ども自身が考える本質に迫る問いが充実しているため、考えるにあたって自分のことも振り返ることができる。
20	取り上げている教材が児童の実態と合っている。グローバルスタンダードとなっている考え方に触れることで、自己の価値観や考え方をより広げていくことができると考えられるため。設問の回答が限定的でない。内容が幅広く取り上げられており、多面的に考えることができるため。
21	道徳学習導入の場面で、話し合っって新しい考えが生まれることもあるという視点も書かれている。
22	「つなげよう」の内容が本文とよくリンクし、流れが自然である。
23	学校生活に沿った内容である。内容が自分のこととして考えやすくなっている。
24	教材に取り上げられている人物やキャラクターが児童になじみのあるものが多く、関心が高まりやすい。また、教材とコラムを組み合わせたつくりになっていて、物事を多面的多角的に考えることができる。
25	自己を見つめる話「やめられない」では、自分の生活と照らし合わせることができるような話になっていて、児童が自己を見つめやすいと感じた。
26	「考えよう」で自ら考え、自分なりの答えを導き出せる問いが用意されている。
27	表紙の子どもの絵が少年にも少女にも見え、ジェンダーについて考えるきっかけにもなる。「考えよう」「つなげよう」の質問が適切で、多様な考えを引き出すことができる。

その教科書が適切である理由	
6.「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	国語の内容や様式に近く、児童が接しやすい。深い学びになるよう、工夫しやすい。吹き出しがあり、感情移入して考えられる。
2	児童の日常生活から問題提起している題材が多い。
3	実生活に役立つための工夫がされていてよい。問題解決できる発問が多く盛り込まれている。
4	ロールプレイなどの仕方が丁寧に記されている。
5	発展的な実生活で生かされる問いがある。
6	生命の尊さを学ぶ題材が多い。
7	実生活や社会の中で学んだことを生かせる投げかけが多く、問題解決学習にも適しているつくりとなっている。また、他教科と関連付けられる内容も多く、考えが深められやすい。
8	体験的な学習が盛り込まれている。季節に関係する内容が入っていてよい。児童の体験と照らし合わせやすい内容になっている。
9	多面的に題材を捉えられるため、自分自身の思いを表現することで、自己を振り返り、その後の行動を考えることができる。「考えよう」の質問が適切であり、問題解決につながる。
10	問題解決に向けロールプレイ・劇など体験的な学習で工夫している。
11	「学びの記録」のページがあり、自己の記録や体験を、読み物と合わせて残していけるよう配慮されている。
12	児童にとって日常的で親しみのある場面が多く扱われている。
13	体験的で身近な内容になっている教材文があり、考えやすい。
14	問題解決的な学習に取り組みやすい。
15	体験したことがあるような身近な題材が多く、自分事として考えられる。よりよく生きるために、幅広い年齢の人々の夢が描かれている。夢を描きやすく、語りやすい。
16	「おてつだい」など子どもの身近によくある事例がうまく教材化され、視覚的には絵を多用するなど、自分事として考えやすい工夫がある。「持続可能な社会」という項目では、自分から興味を持って調べたり活動したりできるよう工夫されている。
17	身近な題材なので、主体的な問題解決につなげやすい。話し合いの続きを学級で出来る教材があり、体験的な学習ができる。
18	他教科との関連があり、様々な体験について、道徳的観点からも考えることができるため。係活動や学校行事に関する話が取り上げられており、自分自身に置き換えて考え、行動しやすいと思われるため。自分の体験を振り返るような設問があるため。日々の実践に生かせるような問いかけがある。
19	話し合い活動に関する記述がわかりやすい。自分たちの生活や各教科につながる。資料の途中でも考えさせることができる。
20	物語が多く、読み物としてもおもしろい。国語の発展として使えるほど興味深い。
21	日々の体験に沿った内容である。実生活でも起こりそうな場面が取り上げられている。
22	教材で問題を提議し、そのあとに解決を促すヒントのような資料が含まれていて、学級での話し合いもしやすくなっている。自分にできることややってみたいボランティアなどを見つけるきっかけ作りも工夫されている。
23	実際にクラスで起こっているような問題を説明文や物語として取り入れているため、クラスで話し合いがしやすいのではないかとと思う。
24	他教科(社会)とも関連させ、体験を促す工夫が見られる。身近な問題を数多く取り上げ、他教科との関連も多く見られる。写真や資料が多く、情報もたくさん得られる。
25	子どもたちが似たような体験をして、「あるある」と考えやすそうな題材になっている。「演じて考えよう」という考え方が、体験的でよい。視覚的にとらえ、考えを深め合うことができる。ロールプレイの視点。深める教材があったから。

その教科書が適切である理由	
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	発達段階に応じた内容が多く取り入れられている。教科書のサイズが使いやすい。身近なスポーツ選手やタレントの起用、読みものの数の多さなど、選びながら使える。マンガもあり、親しみやすい。
2	体験的な内容が、本校の児童に適している。
3	読みものと行動が自然につながるようになっている。また興味の幅が広い児童が多いので、多様な資料が使用されていてよい。そのため様々な角度からのアプローチができるため児童の実態に合わせられる。国語教科書の良い面が活かされ、教材を抵抗なく授業に取り込むことができる。
4	児童が読みやすい字体、挿絵がわかりやすくてよい。内容が生活習慣や善悪の判断において的確でよい。
5	生命の尊さを扱っている教材に触れることができる。文章量、難易度が適切である。
6	若田光一さんなど内容が児童にとって身近な人を取り上げているので、親しみやすい。挿絵やイラスト、写真が多く使われている。
7	挿絵がかわいくて、子どもの興味を引くことができる。(4年)
8	本校は国際教室もあることから、人権に対する価値についての記述の多いのが良い。自分で考えることができるようになっている。
9	子どもたちが興味を持って読める内容の話が多く含まれている。また、大判でカラフルであったり、絵本作家の挿絵等を使用するなど、児童の興味を引きつける工夫が見られる。
10	子どもの生活に即した話が多い。本校の児童の実態に合っている。
11	答えを欲しがらぬ児童が多い中、自主的に考え、自律的な行動につながる題材設定や問いが投げかけられている。
12	生命の大切をメインに、自然に読める、読みやすい教材である。
13	他者に比べて児童の生活や思考に合った教材が多く掲載されている。また、国語の教科書との共通点もあるため、児童にとって親しみやすく、教師側にとっても扱いやすい。
14	児童の生活に即した内容が多く取り上げられているので、学習したことを自己の生活に生かしやすい。
15	考えたり話したりする内容がよくわかり、「話す・聞く」活動を充実させることができる。メール等の本校の実態に通じる題材が取り上げられている。
16	文字や絵の大きさが適切である。「世界人権宣言」に触れている。生まれや家庭の事情と関係なく、等しくある人権について考える機会をもつことは重要である。
17	決まった結論があまりなく、多面的に考えられる。日頃直面する課題が取り上げられている。現在使用している教科書と同じ教材・挿絵があり、リンクしやすい。
18	文章や内容量が適切。文章記述等の課題が少ない。挿絵や写真などによって教材に引きつけられ、意欲的に学習ができると思われるため。多角的なものの見方を養える。取り扱われている題材が児童の実態に合っている。
19	子どもの興味を引きだし、考える道徳につながる。
20	「学習のまとめ」の月別(おおまかだが)に分けられているのが取り組みやすい。漫画、絵などが学年に応じて興味を持たせやすい。
21	他の教科の教科書でも使用しているため、なじみやすく使いやすい。「考えよう」の質問がわかりやすく、自分のこととして捉えやすい。
22	「生命を大切に作る心」の育成に重点を置き、「生命の尊さ」に関する教材があるので、学校全体でも取り組むことができよいと思われる。
23	読みやすく、児童にとって身近なテーマが多い。
24	自分の意見をもち、周りに発信できる児童を育てるための適切な教科書であると考ええる。
25	サイズが小さく使いやすそう。視覚的教材もあり、わかりやすい。

平成30年度使用教科用図書調査書まとめ 「その教科書が適切である理由」一覧

小学校・特別の教科 道徳

日本文教出版

その教科書が適切である理由	
4.「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	いろいろな立場から考えられるような設問に工夫がある。「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」があり、話し合いがしやすそうである。(2)興味を持ちやすい絵や写真で使いやすい。
2	現代的社会的課題が本校の児童にとっても、身近な問題となっている。内容構成が身近であり、本校の児童に考えてもらいたい観点で構成されていた。
3	興味をひく題材が多く、考えることが明示されているので、児童も議論しやすく、自分の考えもまとまりやすいと考える。自分自身の身近な経験と比較しやすいため、考えや議論につながりやすい。道徳ノートの書き込みを使って、「考える道徳」「議論する道徳」につながる。
4	読みものの後に話し合ったり、モデリングする様子が記されている。評価をする際には、自分の考えを書くことができる。
5	設問が単純でわかりやすく、みんなで考えを共有し、話し合えるものが多いと感じた。
6	自分の考えなどを書き込むスペースがあり、みんなで考えを深めることができる。(2年)話し合いの際に、学習の手引きを活用できる。(4年)見やすい、読みやすい、考えやすい構成になっている。(5年)
6	劇をしたり、体を動かしたり、見つけたことを話し合ったりするページがあり、自分自身の生活と結びつけて互いの考えを深めることができる。「手引き」が良い。
7	どうとくノートに友達の考えを書く欄があり、話し合い活動に重点を置いている。自分に返す質問があり、自分事としてとらえられる。
8	適度な話とその後のワークシートがあり使いやすい。絵と文のバランスがよい。動物を用いており、議論しやすい。タイトルはやや気になるが、内容に偏りがなく多様な考えができる。児童がイメージしやすく、考えを深められる内容が多い。分量やその配分も適切である。
10	別冊「どうとくノート」の活用により、一人ひとりの考えをまとめたうえで話し合いを進めることができると考える。
11	自ら考えたいような発問が多いため。
12	ワークシートがあり、児童が書きやすい量が確保されている。
13	日常生活に生かせる構成になっている。
5.「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	自分の考えを広げたり、深めたりすることができる内容になっている。
2	別冊のノートに自分の考えや友達の考えを書きこみ、様々な意見を取り入れることができる。
3	読み物以外の手立ても活用している。
4	「見つめよう」のポイントがあってわかりやすい。写真資料が多く、興味を引き、多面的な考え方が期待できる。「くりのみ」の題材が発達段階にあっていてよい。
5	設問等が答えが一つでなく、様々な考え方が出来るようになっている。
6	物事を多面的に考えるための工夫がされているため。
7	課題の提示がわかりやすく、教科書に沿って活動させやすい。日常の出来事が取り上げられていて、身近に感じられる。
8	誘導的な質問になっていない。
9	自己の考えとは異なるものを記録する活動がある。記録のための分冊があり、振り返りができる。
10	物事を一方的に解決する内容が少なく、多面的・多角的に考えられる。子どもの考えを自由に反映できる。
11	自分の身に置き換えて見つめ生かす発問の工夫がある。
12	マンガのキャラクターなど、児童が興味を持ちそうな内容である。

その教科書が適切である理由	
6.「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	「あとかたづけをしよう」など身近な体験的内容が多く、実感を伴いやすい。
2	問題解決を意識した発問、学びの進め方がある。
3	題材のはじめに、問題解決に向けた「めあて」がわかりやすく表記されているので、話し合いもスムーズに進む。
4	ロールプレイ学習が取り入れられている。
5	マンガのキャラクターなど、児童が興味を持ちそうな内容である。
6	体験的な学習等が適切に取り上げられているため。
7	児童に身近な内容、体験的な学習が取り上げられている。
8	問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習が、児童にわかりやすい文章で取り上げられている。
9	読み物以外の手立ても活用している。
10	児童が主体的に解決に向けた学習に取り組めるように工夫されている。
11	問いかける形になっている点が良い。
12	目標が明示しており、授業が組み立てやすい。まず数がついていて使いやすいように感じる。書き込んで教員がチェックしやすいように工夫して作られている。各教材の後に学習の手引きがあるので、問題解決的な学習につながりやすい。
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	量的・内容的にはよい。
2	現代の問題になっている情報モラルについて考える学習があり、本校の実態に合っていると感じた。
3	児童が関心を持って取り組みそうと感じたため。
4	本校児童が興味関心を見出す内容になっている。
5	児童の興味関心をひく話や題材が多く、授業に積極的に参加できるようになっている。身近に見受けられるトラブルが題材として扱われていた。
6	分量が適切である。

平成30年度使用教科用図書調査書まとめ 「その教科書が適切である理由」一覧

小学校・特別の教科 道徳

光文書院

その教科書が適切である理由	
4. 「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	現代の内容に即している。考える教材を扱っている。配置が見やすく、写真がわかりやすく説明されているなど、読みやすい。
2	児童の身に起こりそうな内容が取り上げられており、自分自身のこととして考えやすい内容である。また、物語で結論をはっきり示さないことで、児童自身が考え、様々な意見交換ができる。考えよう、つなげようという項目があり、自分自身のこととして捉えやすい。内容と関わりのある本や人物の紹介がされていて、児童の興味が広がる。
3	児童の生活に根ざした、わかりやすい状況設定が良い。
4	身近な題材を取り入れることで自分自身の問題としてとらえやすい。
5	議論する道徳につながる構成になっている。様々な視点で議論できる。議論する内容が明確。いろいろなパターンの教材や提示があり、児童が興味関心を持ちやすい。所々に書き込めるところもあり、量も適当。ふりがながあり、読めないことの壁を低くしている。内容がわかりやすい。考える道徳につながった内容。
6	質問項目が少なく、一つの質問に対して考えを深めることができる。ノンフィクション系の材料の選択が良い。
7	考えるためのポイントが書かれている。
8	学習に応じた話題が題材として取り上げられている。
9	各教材下のキャラクターのつぶやきが児童の考えを深めるヒントとなっている。「まとめる」「ひろげる」で、学びを生かすことができると考える。
10	子ども自身が考え、話し合うことができる。様々な立場の人物が出てくるので、話しやすい。ノートがないので、自由な形で授業が進められる。
11	学校生活や家族の中での行動を振り返る設問が多く、児童が自身の問題としてとらえやすいと考える。
12	読み物教材の後の問いかけが扱いやすい設問になっているため。
13	自分を振り返る発問が毎時間設定されている。単元で考えることや友達と話し合うことが精選されている。
14	児童にとって身近なテーマを多く扱っているため、自分自身の問題として考えやすい内容構成になっている。
15	自分の考えなどを書き込むスペースがあり、みんなで考えを深めることができる。(2年)
16	「道徳」について児童にわかりやすい説明から入っているため。オリエンテーションがしっかりしていて、目的意識を持ちやすいため。
17	資料の前の導入の問いかけが自然である。
18	読みやすく、1年生から情報モラルを扱っており、時代に即している。考える道徳・議論する道徳につながる内容構成になっている。「問いを持つ、考える、話し合い、まとめる、やってみる」をおさえた内容になっている。
19	児童が興味関心をもち、様々な意見を出しそうな設問・題材の工夫が見られる。
20	クラスで話し合うよう投げかけている。
21	児童が自分事としてとらえやすい資料が多く、文章がわかりやすい。

その教科書が適切である理由	
5.「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	人として大切なマナーもバランスよく考えさせるとともに、いろいろな立場に目を向けさせるように工夫されている。
2	葛藤場面を作りやすい教材文が採用されている。
3	考えを広げ深め合うような設問が用意されている。答えが一つにならないような発問になっている。身近な題材から事故を振り返り、今後の道しるべとして考え方のヒントがある。
4	児童一人ひとりが自分の考えを述べられるような題材が多く、活発な意見交換が期待できる。自分とは違う考え方に接し、多角的な視点から物事を見つめることができる。
5	トピックごとの課題が適切である。吹き出しで、疑問や考える視点を加え、見方の選択肢が広がる。本文の読み取りだけでなく、多様な考えのできる設問がある。
6	児童の心情に揺さぶりをかけることができる良い資料がそろっている。
7	目当てがわかりやすく書かれている。
8	話の中に、何人かの登場人物が設定されており、一人の見方だけでなく、他者からの見方にも考えが及ぶような場面設定がなされている。
9	発問の内容がわかりやすく、様々な答えが出やすいのではないかと。いろいろな教材が入っている。
10	児童の様々な考えを引き出せそうな発問である。一つの視点ではなく、多角的に考えられる題材がある。
11	キャラクターなどを効果的に取り入れていて、感情移入しやすそうだから。
12	自己を見つめる文章が多く掲載されている。
13	設問の中に他の人に紹介しようという問いが多く、様々なことを考えられる工夫ができていて、一つの答えに導くような設問になっていないので、いろいろな考え方ができる。
14	様々な価値観と持つことができる。取り上げている内容が適切。日々の生活を振り返られる内容が多い。取り上げられている人物や題材が多方面にわたっている。
15	まとめ、考え、話し合う活動が上手に構成されている。
16	自己を見つめるための題材として、スポーツで活躍する人が適切に取り上げられている。
17	「かぼちゃのつる」が自由と責任の扱いになっており、適切と考えられる。
18	掲載資料が多く、児童に合った資料を選ぶことができる。
19	多様な考え、見方を提示している。また、状況設定がわかりやすく、様々な角度から物事を考える工夫がされている。
20	児童の考えを広げることができる設問が多い。(3年)
21	考えたことを行動につなげるための発問がある。

その教科書が適切である理由	
6.「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	自分を振り返る内容が取り上げられている。
2	適切に取り上げられている。
3	課題→話→自分の考えがあるので、自分事として捉えやすい。
4	相手に対する思いやりや親切な心が育まれるような題材が取り上げられている。
5	日常生活を結びつけやすい内容である。
6	子どもたち自身が考えていける。
7	ロールプレイなど体験的な活動を取り入れやすいつくりとなっている。
8	問題解決的な学習を意図した題材の内容や量が適切である。
9	子どもの身近な生活から考えさせる教材が多く学習しやすい。
10	資料の後に、授業から広げていく問いかけが書かれている。
11	「まとめる」「ひろげる」をヒントとして、体験的な学習を展開しやすい。
12	ワークシート教材が、具体的に考える手助けになる。
13	「やってみる」課題などがついていて、考えさせやすそうだから。
14	体験的学習が盛り込まれている。
15	学校生活の中での身近な問題を取り上げ、自分たちと向き合う。
16	児童にとって身近な内容が多く、自分たちの体験と関連して学習が行いやすい。
17	話し合い活動など、取り組みやすい設問構成のため。
18	設問が途中に入っていてよい。実際に「やってみよう」「さがしてみよう」といった内容が多いため。
19	自己の経験につなげて考えやすい教材文が入れている。
20	文の途中に、内容に関する設問があり、児童にとっては、内容をとらえやすいのではないかと思う。発問については、別にあり、ねらいにせまりやすいと感じた。
21	児童の実態に基づいた内容になっている。(2年)自分たちの身近な問題について取り上げ、自分たちの振り返りができるようになっている。(3年)体験できる小単元(資料)のページが豊富である。(4年)
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	児童の生活経験につながりやすいものが多い。
2	読みやすく、わかりやすい。
3	一冊にまとまっていて、文字が大きく、読みやすいから。
4	話し合う機会が少ないため、そうした機会が設けられている。
5	自分の生活に密着した教材が多く、考えたり話し合ったりしやすい。
6	社会規範を守るとともに、公德心を持ち、それらの精神を日々の生活の中に生かしていく児童を育てようとする内容になっている。
7	文字の大きさと内容的によい。学校生活に見られる課題を取り上げている。
8	本校卒業生の山田恵里選手もいた女子ソフトボールチームのチームワークの話や本市ゆかりの杉原千畝の話が資料になっている。
9	はじめに見開きで学習の流れが示されているので、見通しをもちやすい。
10	子どもの実感に合う。
11	脚注に観点や考えるヒントがあり、話題として考えやすい。題材が本校児童にとって身近である。ICTに関するモラルについて取り上げられている。
12	素直だが周囲に流されやすい児童が多いので、自分で考え行動するよう促す内容が多い教科書が適切と言える。
13	話がわかりやすく、興味関心が持てる題材を扱っている。また、設問の数も適当であり、考えやすい。(3年)
14	学校の実態に合っている。
15	挿絵のタッチが、学年に合っている。
16	1年生から3年生までスマホ等インターネットの引き起こす問題を題材にした教材となっていて、実態を踏まえた最近の小学生の陥りやすい問題を題材にしている。装丁・表現が見やすい。
17	内容の幅が広く、子どもたちの興味がひきつけられる。
18	インターネット上のトラブルに関する内容があり、情報モラル向上につながる。

その教科書が適切である理由	
4. 「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	一方的な考えに偏らないような発問になっている。最後の「考えよう」が一つの考えではなく、多様な考えが出るような投げかけがなされている。
2	児童が日々生活する中でイメージしやすく、考えを深められる内容が多い。分量や配分も適切である。複数の解釈ができる題材があり、いろいろな考えを引き出すことができる。
3	めあて、副題が記載されていないので、議論の方向性を限定しないものと思われる。構成パターンが統一され学習しやすく、配慮が必要な児童にも取り組みやすい。
4	児童の実生活に基づいた内容なので、自分の問題として考えやすい。
5	読むだけでなく、他の活動につなげることができそう。「考えよう」があり、話し合いがしやすそうである。(2)「やってみよう」「深めよう」がわかりやすく考えられる。
6	4種類の学び方のページがあり、子どもたちが議論しやすい構成となっている。
7	児童の考えを広げるのに適した発問となっている。各資料ごとに掲載されている問いが少なく、クラスの児童の実態に合わせて考える場面をつくることができる。
8	インターネットに関係する内容がわかりやすい。児童の発達段階に即している。
9	1つの読みものの量が適切、適当である。読みやすい。
10	児童の生活にかかわりのある教材が多いので、自分のこととして考えを深めることができる。「ふかめよう」によって、多様な学び方が提示されている。
11	考えるためのポイントが書かれている。
12	文字の大きさが読みやすく、内容もよい。
13	ノンフィクション系の教材が多く取り上げられていて、リアリティを伴って子どもの心に迫る力がある。自分に返す質問があり、自分事としてとらえられる。教科書のページに主題が明記されていないところが良い。議論しやすい。
14	児童が考えやすい題材になっている。登場人物が同じ世代の子であるため、身近に感じやすい。学校での出来事は、子どもたちに共感でき、考えられる内容になっている。
15	児童が他教科で学習した内容とリンクしていて、各学年にあったものになっている。
16	設問がわかりやすい。話し合いを通して考えられる教材が多いと感じた。
17	話の中の発問から、振り返りができる。
18	身近な学校生活での出来事を題材に取り上げ、「私だったら」と登場人物を自分と置き換えながら考えることができる。タイトルにねらいが書かれていないので、児童の考えが多様になる。
19	発問が2つにしばられており、多様な考えを出しやすい形になっている。場面の状況をわかりやすい資料や挿絵で補っているので、話し合いが活発になる。「？考えよう」は、一人ひとりの考えを持たせやすいつくりになっている。
20	「深めよう」「広げよう」といったワークにより、書く、考えることができる。
21	思考の流れを作りやすい構成になっている。(4年)
22	学びのパターンがいくつかあり、議論を深める発問に工夫がある。「ねらい」がないため、考えやすい。
23	児童より様々な意見や考えが出やすい発問になっているため。
24	自分を振り返りながら話し合える教材が取り上げられている。
25	学齢に応じた話題が題材として取り上げられている。図で示されているので、考えやすそうだ。
26	考えるポイントがシンプルで適切に示されている。

その教科書が適切である理由	
5.「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	異なる複数の意見を提示して、考えを深めさせる工夫がなされているため。
2	バランスよく様々な分野が入っていて、物事を多面的に考える工夫がされている。また、発問がシンプルで取り組みやすく、児童の多様な価値観を引き出せる工夫が見られる。
3	「ふかめよう」「つなげよう」で考える工夫がある。奥なる考えを認めやすくなる工夫がある。
4	5W1Hの発問が多いため、様々な議論が生まれる可能性がある。
5	「考えよう」のところが、読み取りではなく、自分で考えるようになっている。
6	よい行い、悪い行い等、自分がどちらの立場にもなりうることを考え、その時々で最善の選択は何かを考えられるようになっている。
7	考えを深めるための資料が多い。(4年)
8	児童が興味を持つことができるような多方面からの話題を扱っている。誘導的な質問になっていない。主題の記載がないので、自由な発想ができる。
9	深めよう・やってみようなどのミニコラムが書き込みもできて使いやすそうである。イラスト挿絵にも工夫がある。「考えよう」で考えが深められる。
10	他者理解につながる発問になっている。自己を振り返り、他者の様々な考えに触れられる機会を多く作れる。
11	マークがわかりやすい。
12	どの項目にも、自己について振り返る問いかけがあり、考えやすい。
13	多面的・多角的に物事を考えられる読み物が多い。
14	「考えよう」が扱いやすく、様々な面から思考できる。
15	随所に書き込みができる。様々な読本が多岐にわたっているので、事柄を多面的にとらえやすい。
16	異なる意見を教材に提示して、多面的多角的に考えられるようになっている。発展的な内容で、自分を見つめ直したり、補足の資料からいろいろな見方を知ることができる。
17	主題や発問が具体的なので、児童が多面的・多角的に考えやすい。
18	設問が子どもたちが考えやすい言葉で表されている。4種類の学び方のページがあり、多角的に考える工夫がされている。
19	設問が少なく、児童の実態に沿った問いが加えられたり、考えを引き出したりできる。一つの話の中に、相手の考えが出てくる場面が多く、物事を様々な面から考えられる。海外と日本の対比の題材がわかりやすくよい。
20	世界に目を向けられるような内容が多い。
21	児童の様々な考えを引き出せそうな発問である。一つの視点ではなく、多角的に考えられる題材がある。
22	葛藤場面を作りやすい教材文が採用されている。
23	題名にめあてや問いかけが書かれていないので、先入観を持たないで資料を読むことができる。
24	児童が他教科で学習した内容とリンクしていて、各学年にあったものになっている。
25	神戸の復興、海外の話、宮沢賢治など、教材が幅広く多岐にわたっている。

その教科書が適切である理由	
6.「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	問題解決的な学習ができる教材が多く、話し合いや書く活動など、言語活動もしっかり学習できる。
2	教科書内に読み物、ワーク等がバランスよく入っており、自身の考えと他者の考えを交流させながら課題にアプローチすることができる。
3	「やってみよう」というページが授業で活用しやすい。
4	最後に4つの分野別の振り返りページがあり、問題解決をしやすい構成となっていて工夫が感じられる。記述するスペースも確保されていて、書く分量も適切である。
5	実生活に起こりうる内容に基づき、体験的な学習がしやすい。
6	児童に身近な内容、体験的な学習が取り上げられている。
7	「きまりかた」は、道徳的行為に対する体験的な学習を適切に取り上げている。グループディスカッションやインタビュー形式など体験的な活動が盛り込まれている。
8	問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習が、児童にわかりやすい文章で取り上げられている。
9	ロールプレイングなどを通して、取り組みやすい題材になっている。
10	体験的な活動が取り上げられており、自分自身のこととして考えることができるため。
11	ボランティア活動など、地域の活動を取り上げ、授業で学んだことを実践する例が挙げられている。
12	「やってみよう」「つなげよう」等の体験的な活動が多く、学級で取り入れやすくなっている。読み物だけでなく、自分のしてきたことを見つめ直すページが多い。題材を元に行うロールプレイングがあり、自己のこととして取り組める点が良い。問題解決への道筋をわかりやすく示している。
13	自己の経験につなげて考えやすい教材文が入れられている。
14	身の回りの体験に近いものが多く教材として取り上げられており、自分たちに置き換えて深く考えることができる。
15	「学び方のページ」で、問題解決的な学習の筋道が提示されている。
16	ロールプレイを取り入れ、気持ちをとらえやすくしている。
17	学級でのよくある出来事が、適切に取り入れられている。
18	問題解決的な学習が可能な教材が豊富なため。
19	子どもたちが自分のこととして考えやすい内容となっている。
20	授業中の活動をイメージしやすい。体験活動の方法なども示されていて取り組みやすい。
21	考え、議論する投げかけが的確である。日常的に体験しそうな課題になっている。
22	日常生活を結びつけやすい内容である。学年に応じた内容になっている。
23	児童が興味を持って、考えることができるような内容となっている。物語資料のみでなく、自分自身のことを振り返ったり、身のまわりのことを考え直してみたりできる資料がある。
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	写真やイラストが大きく、文章とも連動して読み進めることができる。教科書の中にワークもついており、自分の考えを記述しながらグループ活動に結びつけることができる。
2	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接するように工夫されている。実践例が多いことが、本校の児童に合っている。
3	文字が大きく読みやすい。(2年)文字の大きさが適切(大き目でよい)であり、写真もきれいである。(5年)
4	挿絵や構成に児童が興味を持ちやすい。家庭との連携につながり活用しやすい。
5	児童の生活経験につながりやすいものが多い。
6	低学年には読み物と絵の分量がちょうどよく、親しみやすい身近な内容になっている。
7	現代の社会的な内容を多く取り扱っている。
8	写真や絵が多く、子どもがひきつけられやすく、読みやすい。家族についてのテーマが一般的で、本校の児童にとって扱いやすい。
9	挿絵や写真で興味を引きつける工夫がされている。内容が難しすぎず、理解しやすい。
10	「やってみよう」「つなげよう」等の体験的な活動が多く、学級で取り入れやすくなっている。読み物だけでなく、自分のしてきたことを見つめ直すページが多い。文字の大きさ、挿絵、発問等適切である。イラストや写真が豊富で、時事的な内容もあり、子どもの興味・関心を引くものが多い。
11	考えようの視点が明確で、自分の考えを持ちやすく、議論につなげやすい。イラストや図が多く、文字も大きく読みやすい。
12	外国籍児童がいる本校において、身近に感じる教材が含まれている教科書は、話し合いがしやすいと感じた。
13	字が大きく見やすい作りとなっており、発問等も分かりやすい。また、児童が親しみを持てる人物を取り上げている。
14	文章量がちょうどよく、実践できそうな内容である。
15	使いやすいワークで学びが高まり、考える、書くことに取り組むやすい。
16	身近なスポーツ選手を題材にするなど、学びやすさに配慮した工夫が多いため。
17	親しみやすい物語やたとえ話が多い。
18	児童の日常生活から想像しやすい内容が多い。内容も表現もわかりやすく、どの言葉でも親しみやすい題材になっている。
19	本校児童が実際に体験する行事や校外学習に関係する題材があり、身近なものとして考えやすい。
20	授業の流れがわかりやすく説明されており、児童にとってわかりやすい。
21	情報モラルや学校行事の内容が、本校の問題解決に適切である。児童が自主的に取り組める内容になっている。
22	興味がわくような絵や写真が多い。
23	本校の児童に求められる、じっくり考えて、自主的に行動する気持ちを育てるのに適している。

平成30年度使用教科用図書調査書まとめ 「その教科書が適切である理由」一覧

小学校・特別の教科 道徳

廣濟堂あかつき

その教科書が適切である理由	
4.「特別の教科 道徳」に係る観点① 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
1	昔の童話が多く取り上げられていて、教材としての話の長さも適切で、低学年には考えやすい内容になっている。
2	問いの構成として、話の内容から自分自身のことへと展開していき、その後社会一般の考え方などを話し合える。流れがスムーズである。
5.「特別の教科 道徳」に係る観点② 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか。	
1	分冊に書き込み欄が多く、多面的に考えを広げる学習活動に適している。
2	様々な事象を取り扱っており、多面的に考える手立てが示されているため。
3	単元ごとに自分を振り返ることができやすいノートがある。
4	別冊のノートがあり、自分の考えや心の変化を書き留めて残しておくことで、自分の成長や変化を確認することができる。ノートの発問も、答えやすいものが多い。
6.「特別の教科 道徳」に係る観点③ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習は適切に取り上げられているか。	
1	ノートがついていて使いやすそうである。児童が書き込んだことを教員がチェックしやすいように工夫して作られている。
2	ノートで振り返ることで自分の考えをまとめやすくなっている。
7.本校の児童の実態や地域等の特性との関連	
1	子どもたちには、身近に感じられる江ノ島で行われたオリンピックの話が掲載されている。
2	毎回振り返りを記入する欄があり、学んだことを継続的に積み重ねることができる。
3	挿絵の雰囲気が温かく、教材に肯定的に入り込める。